

# 家畜衛生情報

東部地域畜産経営技術推進指導協議会

西部地域畜産経営技術推進指導協議会

668号

2025.1.10

富山県東部家畜保健衛生所

富山県西部家畜保健衛生所

謹賀新年.....	1	第8回日本胚移植技術研究会 長野大会より話題提供.....	5
年頭のご挨拶.....	2	池多小学校に子牛「ななこ」が やってきました！.....	5
新年を迎えて.....	2	防疫情報 .....	6
春節（旧正月）を前に家畜伝染病の 発生予防対策の再徹底に努めましょう... 3		北陸三県和牛子牛市場開催される .....	6
定期報告書の提出について .....	3	お知らせ .....	6
ランピースキン病の発生が 拡大しています.....	4		



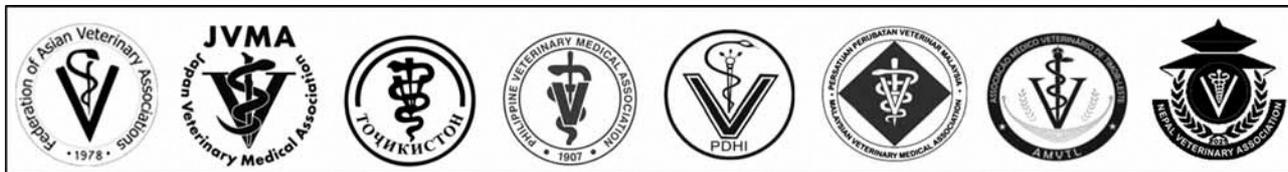
## 謹賀新年



越中福岡のスゲ細工で作った蛇の置物

今年の干支は乙巳（きのとみ）です。「乙」は十干の2番目で、生命の循環で言えば誕生後間もなく、窮屈にかがまっている状態を意味しています。「巳」は、草木の成長が極限に達した状態を表すとされています。「乙」と「巳」の組み合わせは、成長が極限に達し、内包するエネルギーの行き先が閉ざされたことにより、爆発するような大きな変化を引き起こす状態を示していると解釈できます。2025年の乙巳の年は、皆様にとってこれまでの努力や準備が実を結び、新たな道が開ける一年となるよう心よりお祈り申し上げます。

ちなみに、蛇はネズミなどの害獣を獲物とし、長期間エサを食べなくても生き長らえ、脱皮を繰り返して成長することから、豊穰と永遠の生命力の象徴として世界各地で信仰されています。特に西洋では蛇は医学の象徴とされ、ギリシャ神話に登場する名医アスクレピオスが持つ杖には再生と不死のシンボルである蛇が巻きついています。このアスクレピオスの杖と呼ばれるモチーフは、世界保健機関（WHO）の紋章や、我々獣医師のシンボルマークとしても世界的に使用されています。



獣医（veterinary）の頭文字”V”とアスクレピオスの杖を組み合わせたアジア各国の獣医師会シンボルマーク

（東部家保環境課 宮本課長）

## 年頭のご挨拶

東部地域畜産経営技術推進指導協議会

会長(富山市農業水産課長) 余川洋成



あけましておめでとうございます。令和7年の新春を健やかにお迎えになられた生産者の方々をはじめ関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当協議会の活動と畜産業の振興に格別のご理解とご協力を賜り、厚く

お礼申し上げます。

当協議会は、家畜保健衛生や環境保全、経営技術の向上を目的として、昭和58年に設置され、以来、各研修会の開催、防疫演習の実施、家畜衛生情報の発行などを行ってきておりますが、今後におきましても、より一層にこれら活動を活発に行い、地域の畜産業の振興に努めてまいりたいと考えております。

さて、昨年におきましては、畜産農家の皆様には、飼料価格の高止まりが経営に著しい影響を与え、大変ご苦労された年であったかと思えます。また、鳥インフルエンザについては、今シーズン、国内において、家さん農場や野鳥で、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されておりますが、畜産農家の皆様方におかれましては、消毒の徹底や衛生管理基準の遵守、監視強化等に万全を期していただいておりますこと、大変感謝しております。豚熱については、各農場において衛生管理の徹底やワクチン接種を始め、畜産農家や関係機関が一丸となった取り組みにより、幸いにも県内農場での発生はありませんが、依然として、県内の野生いのししで発生しており、予断を許さない状況となっております。

当協議会におきましても、市町村及び関係機関の連携を密にし、防疫体制を強化していくとともに、常に家畜伝染病の発生に備え、会員相互の緊密な情報交換や生産者への迅速で的確な情報提供に努めてまいりたいと考えております。

畜産農家の減少や高齢化、円安の影響など、畜産を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いておりますが、今後も、各関係機関との連携をより一層強化し、技術の向上と畜産の振興に努めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本年も会員の皆様並びに生産者の方々にとりまして、幸多き一年となることをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

## 新年を迎えて

富山県東部家畜保健衛生所

所長 森岡秀就



あけましておめでとうございます。畜産農家の方々をはじめ関係者の皆様には新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、家畜保健衛生所の業務並びに家畜衛生の推進にご理解とご協力を賜り、

厚くお礼申し上げます。

家畜衛生事情ですが、高病原性鳥インフルエンザについては、今シーズンはこれまでで最も早い昨年10月17日から発生が確認され、全国どこで発生してもおかしくない状況が続いており、厳重な警戒が必要となっております。また、豚熱については、野生いのししの感染区域が全国的に徐々に広がり、これまで農場での豚熱の発生がなかった県での発生が確認されており、本県でも捕獲いのししからの豚熱ウイルスの検出率が大幅に増加するなど、農場での発生リスクも増しています。一方、海外に目を向けますと、アフリカ豚熱や口蹄疫が近隣諸国で広く浸潤しており、訪日外客数が増加するなか、日本に侵入するリスクは依然として高い状況にあります。このような家畜伝染病の発生を防止するには、農場での飼養衛生管理を徹底し、一定の防疫レベルを維持していくことが重要となります。これを維持していくことは易しいことではありませんが、家畜保健衛生所としましても、皆様と危機感の共有を行うとともに、今最も重要と言われている農場の飼養衛生管理の「隙」を埋める対策について、飼養衛生管理基準の見える化への取り組み等を通して、しっかりとフォローアップして畜産農家の皆様とともに防疫対策に取り組み、地域の防疫レベルの向上を図ってまいりたいと思っております。また防疫体制については、市町村、関係団体等の皆様と連携を一層強化し、情報共有や点検・改善に努めていきたいと考えております。

飼料、燃料等の価格高騰など厳しい情勢が続いておりますが、家畜防疫を意識して、今後も家畜衛生の推進、畜産振興に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、畜産農家の皆様、関係者の皆様のますますのご発展とご活躍、そして飛躍の一年となりますよう心から祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 春節(旧正月)を前に家畜伝染病の発生予防対策の再徹底に努めましょう

これから旧正月(中国では春節。2025年は1月29日)の時期を迎え、人の出入国や移動が活発になることが見込まれます。また、渡り鳥の飛来・滞在シーズンが続くことから、引き続き危機感を持って農場における病原体侵入防止の徹底が重要となります。

### 1 高病原性鳥インフルエンザ

今シーズンはこれまでで最も早い令和6年10月17日から発生が確認され、全国どこで発生してもおかしくない状況が続いています。

11月21日に開催された鳥インフルエンザ防疫対策緊急全国会議では『①危機感の共有、②飼養衛生管理の「隙」を埋める対策、③大規模農場や過去に発生した農場又は地域における対策の再点検、④発生時の速やかな防疫措置の徹底』を呼び掛ける農林水産大臣メッセージが出されました。全国的に環境中のウイルス濃度が非常に高まっている状況であることから、一層の警戒が必要となっています。

### 2 アフリカ豚熱及び口蹄疫

中国、韓国等の近隣国を含むアジア地域に広く浸潤しています。2024年の訪日外客数は、10月までの累計が過去最速で3,000万人を超えており、入国者等を介してこれらの疾病が我が国に侵入するリスクは依然として高い状況にあります。

### 3 豚熱

野生いのししの感染区域が徐々に広がっており、今年度はこれまで豚での発生がなかった岩手県、新潟県、愛媛県の農場で発生が確認されています。県内でも今年度、野生いのしし53頭(12月25日現在)で陽性が確認されており、農場への侵入防止対策の徹底が必要です。

畜産関係者の皆さまにおかれましては、家畜伝染病の発生状況等を農林水産省ホームページ等で適宜確認していただくとともに、以下に示す対策を徹底してください。また、飼養家畜の健康観察を毎日入念に行い、異状を発見した際は直ちに最寄りの家畜保健衛生所まで通報いただくようお願いいたします。

口蹄疫やアフリカ豚熱等の発生地域へは、農場従業員を含めて渡航を自粛してください。また、外国人従業員等に海外からの違法な畜産物の持ち込み禁止や、公園等での肉製品の放置禁止等について周知してください。

農場に出入りする全ての関係者について、車両の消毒、専用の衣服及び長靴の着用、手指消毒等を徹底してください。また、農場に関係のない人の立ち入りや不要な物品の持ち込みは原則禁止してください。

野生動物の侵入防止のための防護柵や防鳥ネット、畜舎の壁・天井等に穴や破損箇所、隙間等がないか定期的に点検し、不備や破損等を確認した場合は速やかに改善や修繕を図ってください。



令和6年度家畜衛生ポスターデザインコンテスト「日本養豚協会長賞」小林香梅さん(神奈川県 公務員)の作品  
主催：農林水産省 後援：環境省



農林水産省 HP

(東部家保防疫課 宮澤副主幹)

## 定期報告書の提出について

家畜伝染病予防法第12条の4に基づき、家畜及び家さんの所有者は毎年2月1日時点の家畜及び家さんの飼養状況及び飼養管理基準の遵守状況について、県へ報告することが義務付けられており、この報告を「定期報告」と呼びます。対象となる家畜は牛、水牛、鹿、めん羊、山羊、馬、豚(ミニブタ、イノブタ等を含む)、いのしし、鶏(ウコッケイ、チャボ等を含む)、うずら、あひる(アイガモを含む)、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥です。愛玩等の飼養目的に関わらず、1頭羽の飼養から定期報告が必要です。

家畜保健衛生所から定期報告に必要な書類一式を1月中旬に送付しますので、令和7年3月1日までに提出いただきますようお願いいたします。

なお、今回の報告からは従来どおりの紙の申請に加え、新たに電子での申請も可能になります。電子申請には農林水産省共通申請サービス(通称 eMAFF) IDの取得が必要です。電子申請、定期報告書についてご不明な点がある方は、管轄の家畜保健衛生所までお問い合わせください。

(東部家保防疫課 古林獣医師)

# ランピースキン病の発生が拡大しています

ランピースキン病は、令和6年11月6日に福岡県で初めて発生が確認されて以降、12月26日現在までに福岡県の19農場及び熊本県の3農場で発生が確認されています。福岡県では、発生地域での感染拡大を抑えるため、11月21日からワクチン接種が開始されましたが、最近、初確認の2農場から約35km離れた農場でも本病の発生が確認されました。このことについて、サシバエ等の吸血昆虫の飛翔による感染ルート以外に、吸血昆虫が車両に付着又は車内に侵入したことにより、他農場にウイルスが伝播した可能性も懸念されています。本病の感染拡大防止は、発症牛の早期発見、隔離、ワクチン接種等の総合的な防疫対策が重要となり、牛の飼養者におかれましては、以下の点を踏まえて、飼養牛の健康観察及び農場への侵入防止対策の徹底をお願いします。

## 1 ランピースキン病とは

ランピースキン病は、ポックスウイルス科に属するランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病です。感染拡大の主な要因は、サシバエ、蚊、ヌカカ、マダニ等の吸血昆虫による機械的伝播や、感染した牛の移動と考えられています。本病ウイルスは、環境中に長期間生存しますが、エタノールや逆性石けん等の多くの消毒薬で不活化されます。また、本病の潜伏期間は4～14日間と考えられており、感染した牛は、発熱、鼻漏、食欲不振、泌乳量低下及び表在リンパ節の腫大に加え、皮膚及び粘膜に病変が確認されます。死亡率は1～5%ですが有効な治療方法は無く、発症した牛の隔離又は淘汰等により感染拡大を防止する必要があります。



本病感染牛の結節 出典：農林水産省

## 2 農場への侵入防止対策

### 早期発見とまん延防止

- ・毎日健康観察し、当該症状を認めた場合は家畜保健衛生所に連絡！

### 吸血昆虫対策

- ・個体数と吸血頻度の多さから特にサシバエ対策が重要！
  - ・サシバエのコントロールには卵、幼虫、蛹の殺虫が効果的！
  - ・糞がたまりやすい牛舎の隅や溝等のこまめな清掃。IGR剤の散布。堆肥をしっかりと切り返してよく発酵させる。
  - ・成虫対策には、薬剤含浸防虫ネットやハエ取り紙の設置、牛舎内の送風、イヤータグ型の殺虫蒸散剤の使用に加え、サシバエの休息場所となる牛舎周辺の草刈りが有効。
  - ・農場を出入りする車両には、車内への殺虫剤噴霧で迷入したサシバエ等を確実に殺虫！
- 飼養管理等で使用した器具等の消毒
- ・注射針、直腸検査用手袋等に加え、削蹄や除角、耳標装着等に用いる器具は一頭毎に交換・洗浄・消毒を徹底！
  - ・超音波診断装置のプロープも直検手袋等でカバーし確実に一頭毎の交換を！



## 3 まん延防止対策

### ○生乳及び子牛等の出荷自粛

発生農場では感染の拡大を防ぐため、発症牛の生乳出荷や牛の移動（家畜市場、と場等）は自粛することになっています。出荷や移動などの自粛を解除するためには、国の策定した要領に基づき下記のとおり抗原検査又は臨床検査において飼養牛の陰性を確認する必要があります。

- ・発症牛：発症牛の判定日から28日目より後に行う抗原検査により陰性を確認
- ・同居牛（非発症牛）：農場内で最後に発症した牛の判定日から28日目より後に行う臨床検査で陰性を確認
- ・ワクチン接種牛：接種から3週間経過後、臨床症状がないことを確認

### ○ワクチンの接種

アフリカ、欧州、アジア等の発生国ではワクチン接種が実施され、本病の清浄化や発生数の減少が確認されています。特に、韓国では、全頭へのワクチン接種以降、発生件数が大幅に減少し、ワクチン接種は本病撲滅のために最も有効なツールとして国際機関が推奨しています。国内においては、原則として、発生農場を中心とした半径20km以内の農場に対してワクチン接種が実施されています。なお、ワクチン接種は本病の発症を抑えるものであり、農場への侵入を防止するためには、吸血昆虫対策や消毒等の対策が改めて重要となります。

（東部家保防疫課 田知主任）

## 第8回日本胚移植技術研究会長野大会より話題提供

長野県長野市において令和6年10月31日から11月1日にかけて開催された、第8回日本胚移植技術研究会長野大会に参加しました。本研究会では全国の家畜の胚移植の技術者・研究者300名が集まり、繁殖技術に関する研究成果の発表が行われました。特別講演では、信州大学繊維学部の保地教授から「ウシ精子・卵子保存研究のアップデート」と題し、牛の精液、卵子や受精卵の凍結・発生の歴史について講演が行われました。

牛の受精卵移植は1960年代から行われており、半世紀以上の歴史をもつ技術となってきました。日本では効率的な和牛生産を行うことができるため、体内・体外をあわせて年間10万頭ほど受精卵移植が実施されており、牛1万頭あたりの移植割合は世界トップクラスとなっています。現在は、研究として卵子凍結や精子のフリーズドライが行われており、宮城県ではフリーズドライ精子による仔牛の誕生に成功していますが、両技術とも顕微授精が必須なため、実用化までの道のりは長いようです。また、シンポジウムでは「未成熟卵母細胞の体外発育技術の開発」と題し、マウスの卵巣内にある50~60 $\mu$ mの非常に小さな卵胞を20日間体外で培養し、受精卵を作成し移植することにより、産子の作出に成功したという研究成果が発表され、長期間体外で培養が可能であることや顆粒層細胞の増殖が正常な卵子発育には重要なことがわかりました。

今回の大会ではCIDR等のプロゲステロン製剤の使用法、新しい過剰排卵処理方法の検討、体外受精卵の培養方法や直接移植可能なガラス化保存法など45題の発表がありました。研究発表では、体外受精卵やガラス化凍結法に関連する報告が増えてきています。しかし、コストや生産効率的には、まだまだ体内受精卵を用いた方が良く、子牛価格の低迷や生産コストの上昇で厳しい現状ではありますが、今回の研究会で学んだことを現場で活用し、牛受精卵の採卵成績の改善、受胎率向上に取り組み効率的な牛の生産に努めていきたいと思えます。

(東部家保環境課 柳主任)

## 池多小学校に子牛「ななこ」がやってきました！

富山市立池多小学校では、命の大切さ、池多牛が生産されている池多地域の素晴らしさを感じてほしいとの理念から、富山市の竹田牧場から子牛を迎え入れ、地元である池多ファームの村田さんの協力も得て令和6年9月10日から約3カ月間にわたって子牛を飼養しました。児童は子牛に「ななこ」と名前を付け、1~3年生は「ななこ」と仲良くなることとお世話について学び、4~6年生は牛の健康観察、病気、糞の堆肥化等について調べ、学習を進めながら、餌やりや糞の掃除などの飼養管理に挑戦してきました。また、家畜の飼養にあたっては「家畜伝染病予防法」に基づき適切な衛生管理が求められますが、同校では飼養衛生管理基準を遵守するとともに、衛生管理区域では専用の衣服(エプロン)・長靴を着用し、飼養管理を行いました。3カ月間の飼養を通して「ななこ」は餌をよく食べ順調に成長し、11月26日に卒業式を迎えました。今後は竹田牧場に戻って乳牛として育てられる予定です。

また、児童たちは牛を飼養するほかにも、池多ファームを訪問して安心・安全なお肉が食卓に流通するための生産者の取り組みや思いを学んだり、堆肥化された牛糞を活用することで美味しい野菜や果物が育つことを知ったりと、池多地域の素晴らしさを改めて感じる事ができたとのことです。

教育現場での本取組みを通じ、児童、先生をはじめ地域の方々にも畜産業への理解が深まったことを嬉しく思います。

(東部家保防疫課 田知主任)



「ななこ」のお世話をする児童たち



「ななこ」の卒業式

# 防疫情報

## 全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）

（1月6日現在）

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養羽数	血清型
13	令和6年12月10日	愛媛県西条市	採卵鶏	約15万羽	H5N1
	関連農場	同上	採卵鶏	約8.6万羽	—
	関連農場	愛媛県今治市	採卵鶏	20羽	—
14	12月19日	愛媛県西条市	採卵鶏	約11万羽	H5N1
15	12月20日	鹿児島県霧島市	肉用鶏	約9.0万羽	H5N1
16	12月29日	茨城県八千代町	採卵鶏	約107.9万羽	H5
17	令和7年1月2日	愛知県常滑市	採卵鶏	約14.7万羽	H5
18	1月2日	岩手県盛岡市	採卵鶏	約12万羽	H5
19	1月5日	岩手県軽米町	肉用鶏	約5.0万羽	H5
20	1月6日	愛知県常滑市	採卵鶏	約12万羽	H5

## 県内の主な家畜伝染性疾病等の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
乳頭糞線虫症	牛	11月22日	1	1	
破傷風（届出伝染病）	牛	11月30日	1	1	
牛トロウイルス病	牛	12月6日	1	1	
牛トロウイルス病と牛ロタウイルス病	牛	12月6日	1	2	
大脳皮質壊死症	牛	12月17日	1	1	
牛ロタウイルス病	牛	12月25日	1	1	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	12月16日	1	1	と畜場発見
		12月19日	1	1	
肝コクシジウム病	山羊	11月15日	1	1	

## 令和6年（2024年）シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況（令和6年12月5日～12月31日）

事例	回収日	場所	種名
58～89 32事例	11月27日 ～ 12月20日	北海道：札幌市・網走市・斜里町・えりも町・広尾町／岩手県：盛岡市／千葉県：長柄町／鹿児島県：出水市	オオハクチョウ、ハシブトガラス、オオワン、ナベヅル、マナヅル、野鳥糞便、環境試料（水）

## 県内における野性のしし豚熱 PCR 陽性事例（令和6年12月5日～12月25日検査実施分）

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性別
1	捕獲	12月6日	氷見市中田地内	成獣	雌
2	捕獲	12月5日	南砺市利賀村百瀬地内	成獣	雄
3	捕獲	12月17日	氷見市熊無地内	成獣	雄
4	捕獲	12月22日	魚津市東山地内	成獣	雌

## 北陸三県和牛子牛市場開催される

令和6年12月19日、金沢市の北陸三県家畜市場において、令和6年度第5回の北陸三県和牛子牛市場が開催されました。今回は全体で去勢84頭、雌56頭の計140頭の取引が成立し、富山県からの出品牛は去勢26頭、雌15頭の計41頭の取引が成立しました。全体の取引頭数は、前回比マイナス8頭で6%の減少となりました。平均価格は、去勢で563千円（10月市場532千円）、雌で455千円（同414千円）、全体では520千円（同487千円）でした。また、最高価格は去勢で847千円、雌が611千円でした。

次の開催は令和7年2月27日（木）になります。

（東部家保防疫課 宮澤副主幹）

### ☆お知らせ☆

催事等	期日	場所
令和6年度富山県畜産関係業績・成果発表会	1月31日	富山県農協会館8階801会議室（富山市）
畜産女性研修会	2月6日	呉羽ハイツ（富山市）

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 [https://www.pref.toyama.jp/cms\\_sec/1687/](https://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/)  
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話(076)479-1106 F A X (076)479-1140  
編集者 宮本 剛志（富山県東部家畜保健衛生所）  
○最新号は右のQRコードからいつでもご覧いただけます。

